

赤三軍団

全国全共闘赤三軍団書記局発行

日大・中大・武蔵大・東横大・武蔵大・駒沢大・明大

連絡先 TEL 03-674-2914 武蔵大新聞会

11.13-17 首都制圧・羽田占拠

5日間の激動人 総集 せよ

全国全共闘軍団に結集する全ての学友諸君！

新宿に結集した万余の人民大衆を背後に固めた10.21闘争は我々全国全共闘軍団・反戦軍団として高教生軍団という組織された正規軍による闘いによって、まさに侵略と柳庄に全体重をかけたんとしている日本の空前の弾圧体制を八本の、安保粉砕百歩打撃の巨大な突破口とての神懸奮闘ならざるく人の限らない。我々に与えた争いを、さりと確認せねばならない。

10.21闘争が切り拓いた展望の核心はどこにあるのか。それはまずもって、圧倒的な人民大衆を牽引する計画的組織的軍団として我々が登場し得たと同時に、我々の死を覚悟し即ち「肉弾の思想」と闘い階級的圧力を自覚した決意であった。その中にこそ国家権力の非正常弾圧の全面ロックアウトという異常事態を意図した。新宿の解放というプロレタリア的正当に敵化させる鍵があったのである。そしてその闘いのうちに11月佐藤訪米阻止ならざるく人に向けて、たく新しい情勢を切り拓いたのである。

それは国家権力マルシャマスコミがひたかく心に隠していた反戦派労働者の激しい闘いと神懸現地の闘いである。意田馬場を中心とする反戦の闘いの激烈さは風知の毒である。この労働者の10.21闘争はこの力によつて、我々の敵滅への突破口となる。たと同時に、マルシャマスコミでさえ取柄を失う決意と死を覚悟した闘いを持った反戦の力強い闘いの前には正面衝突。兵隊はわらう争が出来ず、ひたすら暴力闘争として革命の主要労働者の闘いを階級化しようとした。しかし八名の革命的教師を先頭にあらゆる取柄で反戦が討論の中心となり、増え労働者も結集して来ているのである。また、この二十一年の分荷支配も永久核基地化の甲て苦められてきた沖縄人民の前に登場した神懸暴反戦主義の英雄的同志の武器を以て基地に突入り、死刑あるいは無期という弾圧を八本の打撃闘争の方向性を全人民の前に開かすに、百舌神懸農民の基地撤去の闘い同敵隊が始まっているのだ。

すなわち戦後世界体制が工内体制の階級的危株とバトアムに於ける敗北という形を徹底的に動搖を開始している中において、日本帝国主义とその危株と矛盾の深化という事態を赤三軍団

の手による「神懸同士の解決と安保の実憂の大改革と統治形態の警察国家化を以てこそ乗り切れないのである。赤三軍団にとって神懸は「秘蔵の寶石」でありアジア侵略の軍事的環境であるがゆえに「本土並み」に返還は出来ずであり、神懸の永久核基地化本土の神懸化以外の何物でもない。だとするならば日米交渉によってB核の固執が一切明らかにならないのは当然であり、これに対して高まりゆく人民の闘いは共産隊主義による階級に佐藤の政治生命は一切がつかかっているのだ。

10.21に於いて国家権力が全ての産業・会社等々を麻痺させ全部ロックアウトの形をとったが、即ち市民秩序の維持のため市民の自由を奪うという自己矛盾に陥る方法によつてこそ我々の闘争を弾圧出来た。たかすを見るならば、そして我々がその敵体制を基本的に突破出来たことを見るならば五日間の激闘に為すべきことは明白である。即ち10.21に於ける権力の作り出した全部ロックアウトとそれを打破する空爆粉砕神懸奮闘の闘いの革命的意義を11月の訪米以前に圧倒的に作り出し、次に全部全国を訪米阻止のウズでも、つめつくすことなのだ。10.21の情勢を五日間創出した高まりは佐藤政府を根柢から揺り動かすことになり得るであろう。この明後日自らが運命をかけて一切の人民の闘いを共産隊によって圧殺し、「神懸返還交渉」なるものバテン性を階級化する警察国家治安国家人と移行しようとする策動は完膚無きまでに粉砕されるのだ。そうであるが故に我々は常にあの神懸農民が全県ゼネストで訪米阻止に立ちあがる日に69年10月羽田以来の全てを投入して全部制圧を貫徹しなければならぬ。

全ての学友諸君！何れが何れでも勝たねばならない。七十年代の歴史選択として11.13をとりえよ、11.17首都制圧羽田占拠への闘争を全国全共闘赤三軍団へ結集せよ

11.15 中核派政治委員会 結集せよ
Pm. 5:30 ~ 三鷹公会堂